

日本映画放送株式会社 第 51 番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 28 年 5 月 24 日 (火) 15 時～16 時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 15 階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8 名 / 出席委員数 8 名
出席委員(順不同、敬称略) : 菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
放送事業者側出席者 : 取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
編成制作部長 澤 尚志
編成制作部 小林 良弘
番審担当 堤 靖芳
清水 明 (記)
4. 議題 (1) 審議事項
時代劇専門チャンネル「さだまさし時代劇 SP『遠山の金さん』編」について
(2) 報告事項
日本映画専門チャンネル「蔵出し名画座SP サザエさん劇場」について

5. 議題 (1) 概要

東映制作による名作テレビ時代劇「遠山の金さん」シリーズは 1970 年にスタート。中村梅之助、市川段四郎、橋幸夫、杉良太郎、高橋英樹、松方弘樹、松平健、と歴代 7 人もの名優が主演を受け継ぎ、2007 年まで続いた長寿作である。時代劇専門チャンネルでは、現在月曜～金曜の〈あさ/午後の連続アワー〉レギュラー番組として放送中。そこで 5 月 4 日、さだまさしがホストを務める「時代劇スペシャル」で「遠山の金さん」を特集。原形となった映画「いれずみ判官」シリーズから、『江戸っ子判官とふり袖小僧』をチャンネル初放送したほか、テレビシリーズからは、中村梅之助、橋幸夫、杉良太郎、松方弘樹主演版を放送した。また、トークコーナーでは、スペシャルゲストとして橋幸夫と池上季実子が登場した。

【審議 POINT】

- 本番組の狙いである視聴者との交流の場として、番組は機能しているか。
- 本番組ならび特集編成は、チャンネルのゴールデンウイーク編成として相応しかったか。
- 今後更に約 2 年続く「遠山の金さん」シリーズの盛り上げに貢献しているか。

6. 議題(1) 審議内容

- ・特集放送当日に半日通して見た。さだまさしの軽妙なトークは、私のみならず視聴者も楽しめただろう。今後さだまさしはゴールデンウイークの定例にしてはどうだろうか。また、橋の出演シリーズ以外の見どころも紹介すれば、将来への番組宣伝効果がよりあったと思う。
- ・さだまさしが時代劇に造詣が深いことに驚いた。視聴者からのハガキ紹介もこなれている。また、橋幸夫の江戸っ子ぶりにも驚いたし、時代劇の危機的状況を憂う話は理路整然としていて感心した。長時間におよぶ特別企画はとても良かったと思う。
- ・時代劇ファンのさだまさしをスペシャル番組の司会に起用したのは正解だ。彼自身が視聴者代表でありつつ、視聴者に応えるという仲介役を、明るいトークで上手くこなしていた。視聴者のハガキの内容をテロップで出すのはよいが、番組ロゴと重なっていて見にくい。
- ・私はさだまさしがしゃべり過ぎたように感じた。ただ、橋幸夫の話は興味深かった。刺青を入れる時の話や、市川雷蔵ら先輩との思い出話には敬意も感じられて好感を覚えた「遠山の金さん」は長寿シリーズなので、制作当時のスタッフについても知りたいと思う。
- ・番組表が7時間ぶちぬきで、普段時代劇専門チャンネルを見ない人にもお祭り感が伝わるだろう。実在の遠山金四郎の情報や、歴代金さんの個性といった話などをすれば、番組が多角的かつ重層的になっただろう。
- ・時代劇ファンの裾野を広げようと努力しているのは理解できるが、さだまさしで押すよりも、時代劇の素材の素晴らしさを生かし、時代劇を見る観客を真摯に育成しなければいけない。
- ・私も橋幸夫の話を楽しんだ。バラエティ的に撮っているが、話の内容に深みがあるだけにカメラをどっしり固定して、落ち着いて丁寧に見せてもよかった。とはいえ良い編成だ。
- ・さだまさしがマルチクリエイターだとは知っていたが、巧みな話芸に驚かされた。情報量も多く、テンポもよく、レスポンスもよく、ゲストや視聴者にきついことをいっても感情を害さない。審議ポイント3点すべてにさだまが寄与しており、しかも十二分に満たしている。

<事業者回答>

- ・番組企画当初は初代金さんの中村梅之助が出演予定だったが、急逝され、内容の変更を余儀なくされた。制作側が時代劇に詳しいさだまに丸投げしてしまった反省がある。社内からも人物やシリーズに関してもっと解説が必要との声もあった。テロップの入れ方も改善する。
- ・制作側にアイデアが乏しく、さだまさしに頼った番組になってしまったのはご指摘の通り。東京に残る江戸の余韻を生かした番組づくりなど、今後は様々な検討を行っていく。

7. 議題(2) 報告事項

【日本映画専門チャンネル】「蔵出し名画座スペシャル『サザエさん劇場』」

この4月に連載開始70周年を迎えた『サザエさん』について、江利チエミ主演の実写映画版を「蔵出し名画座」の一環として、4月から放送開始した。リクエストも多かった作品で、パッケージ化されていない貴重な10作品だが、これを毎月1本、10か月かけて放送する。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、7月19日(火)開催。